

次に、子育て支援について、質問いたします。昨年11月よりスタートした古川市政ですが、市役所は4月1日から翌年3月31日を会計年度、つまり会計上の1年という区切りとして、その1年間、市役所が取り組む様々な施策によって出ていくお金、歳出と、入ってくるお金、歳入の見込みを計算した、基本的な予算である当初予算に基づいて運営されています。

つまり、古川市長が就任された、昨年11月からこの3月末までは、石川前市長の思いの詰まった運営、体制からのバトンパスの期間であり、この4月1日からが古川色100%の市政運営が始まったということだと思います。

そこで、まずは、そんな当初予算について、質問いたします。

今年度の当初予算のこだわりや思い入れについて、お考えをお聞かせください。

四国一の子育て支援を掲げてスタートした古川市政ですが、当初予算の概要の重点項目にも、子ども・子育て支援の強化を一番最初に掲載されており、ここからも子育て支援に力を入れられていることがうかがわれます。

新規事業もたくさん新設されているようですが、目玉施策等について、お聞かせください。

これらの様々な子育て支援事業は、実際に利用、活用してもらい、生活に役立ててもらってこそだと思いますが、子育て世代は興味関心はあるものの、市政とのつながりがまだまだ薄く、なかなか情報をキャッチしづらいところも大きく、発信の仕方が大切になってくると思われま

す。今年度事業の対象となる方への伝え方等で、何か工夫されている点があればお聞かせください。お願いします。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。古川市長。

○市長（古川拓哉）（登壇） 子育て支援について、お答えいたします。

当初予算における子育て支援策についてでございます。

まず、今年度当初予算のこだわりや思い入れについて、お答えいたします。

本市の未来を担う子供たちが健やかに育ち、若い世代の皆さんが安心して暮らせる地域社会を築いていくためには、子育て支援の充実が重要であるとの思いを強く持っております。

少子化が深刻化する中、若い世代が新居浜市で子供を産み育てたい、この町で暮らし続けたいという気持ちになれるよう、子育てに関する相談体制の充実や、経済的負担の軽減、教育環境の整備などに重点を置いて、当初予算の編成を行いました。

次に、目玉となる施策等についてでございます。

本年度の取組といたしましては、令和6年度に開設したこども家庭センターを中心に、相談体制の充実を図るため、特に支援が必要な家庭や多胎妊産婦世帯を対象に、家事代行や育児支援を行う子育て世帯訪問支援事業と、多胎妊産婦等サポーター派遣事業を新たに開始いたしました。

また、妊婦の経済的な負担軽減を図るため、所得の低い妊婦を対象とした、初回産科受診費用の助成事業

を実施するとともに、先天性疾患の早期発見、早期治療を目的とした、拡大新生児スクリーニング検査の導入により、身体的・精神的負担の軽減につながる支援を進めております。

さらに、妊娠期からの切れ目のない支援の拡充として、妊婦のための支援給付事業に加えて、令和7年度に出生した児童がいる世帯に対して、1人につき定額の給付を行う、出産世帯応援給付金事業を、愛媛県と連携して開始することとしております。

そのほかにも、不登校生徒への支援の充実や国の交付金を活用した給食費の一部助成等、幅広い子育て支援を実施することにより、未来をつくり出す子供が育つまちづくりを目指してまいりたいと考えております。

○議長（田窪秀道） 藤田福祉部こども局長。

○福祉部こども局長（藤田恵女）
（登壇）今年度事業の対象者への伝え方等での工夫について、お答えいたします。

子育て世帯が多く訪れる、こども未来課の窓口や保健センターにおいて事業の対象となる家庭に対し、直接サービスの紹介を行っております。

また、多胎家庭については、郵便はがきにより、個別に御案内をしております。

どの事業においても個別のアプローチを行うことで必要な情報が正しく行き届くよう、工夫を行っております。

また、育児に忙しく、時間に余裕のない子育て中の方々におきましては、短時間で手軽に情報を得ることができる、インターネット上での情報発信を活用し、気づく、気づいてもらえるための情報の出し方、見せ方、イラストや見出しの工夫を行っております。

発信するだけでなく、少しでも見やすくなるよう、改善に努めるとともに、インスタグラムやLINEなどのSNSの活用、今年度は新たにすくすくletterの発行や、地域情報サイトまいぷれへの掲載、産後ケアアプリのママニエール等による、子育て世帯に向けた情報発信を行っております。

今後につきましても様々な手段を活用し、周知啓発に努めてまいります。

○議長（田窪秀道） 野田明里議員。

○4番（野田明里）（登壇）たくさんの方で、少しでも多くの方につながるように、これからも啓発をお願いいたします。発信もお願いいたします。

次に、先日報道もされておりました、新設のこども・子育て複合施設について、質問いたします。

市役所こども未来課と保健センターに設置され、妊婦さんからおおむね18歳の子供とその保護者の妊娠、出産、育児の不安や困り事について、専門スタッフに相談できる、子育て支援の相談拠点であるすまいるステーション。しかし、現在市役所こども未来課と保健センターの2か所に窓口があり、どちらに行けばいいか分かりづらいとの声が多々あり、また、行政特有の堅い雰囲気であったりなど、子育て世代や若い人たちの相談先としての選択肢になりづらい現状があり、それが活用のされづらさにもつながっていたので、

まずは窓口を一つにするという取組は非常にありがたく思います。ゼロ歳から18歳までの子供及びその保護者、妊産婦や子供を持つことを望む人及びそれを支える人たちが、気兼ねなく立ち寄ることができ、相談できる場所、妊娠・出産・乳幼児期をはじめ、就学期に至るまで、子供の成長や発達段階における様々な悩みに対して、きめ細やかな支援を切れ目なく行う場所、市の中心にあり、アクセスがしやすく、誰もが利用しやすい場所というのがこの施設のコネプトだそうですが、まさに、今現在、すまいるステーションや新居浜市の子育て支援が抱える課題の改善につながり得る施設となるのではないかと大変期待しております。

全国的にも、子育て支援は困っている人、支援が必要な人にフォーカスしたものから、全ての母親や父親への普遍的支援へと移行されています。

昨今、外からは分からなくても、ほとんどの母親、父親は何かしらの負担や孤独、見えないしんどさを抱えています。目立って困っていないように見える人こそ、実はふっと寄りかけられる場所や存在が必要で、そのような中で、支援を提供する側が支援が必要かどうかをあらかじめ線引きするような構造では、支援を求めることそのものが特別なことになってしまい、声を上げづらくなる危険性があります。

新設されるような大規模で開放的な施設こそ、特別な理由がなくても来ていい場所、ちょっと子供を遊ばせに来た、ちょっと息抜きしに来たくらいの気軽さで来られる場所であってほしいと思います。

そして、日常的に利用してもらう中で、職員やスタッフの方との信頼関係を築くことで、何げない会話の中から、本人も気づいていないような疲れや悩みの兆しを見つけ、そっと寄り添えるような支援につなげていくことが、これからの時代の子育て支援に求められる在り方だと考えます。

どう支援に出会ってもらうかという視点も大切になっているように思います。

今年1月、会派での視察で訪れた渋谷区のネウボラセンターは、まさにそのような施設でした。

1階にカフェやプレイグラウンド、2階には子育て広場と、低層階は親子が日常的にふらっと訪れ、のんびり過ごせるスペース。そこから階を上がっていくごとに、保健相談所、教育センター、発達相談センター、家庭支援センターと、悩みの深さも上がっていくようなつくりで、それぞれの悩みを相談しやすい、そして、より対応しやすいようなつくりとなっていました。

また、初産の年齢が高めである鎌倉市では、40歳を過ぎて初産を迎える方がとても多いそうです。こちらは母体が高齢であるがゆえのトラブルや身体的疲労も高く、産後から更年期までの期間が短いという背景から、子育て支援に保健師や助産師だけでなく、体のケアのプロである理学療法士にも関わっていただいているそうです。

理学療法士はまさに体のケアや発達、発育のプロ。理学療法士の子育て支援により、赤ちゃんや子供の発達だけでなく、産前産後のお母さんの体のチェックや相談ができることで、心にフォーカスしたような

ケアや支援はたくさんあるのですが、母体自体の体にフォーカスしたような支援があまりなくて、ただ、先ほども言ったように、本当に女性は妊娠、出産、子育てのその後に更年期が待ち構えています。その辺りをトータルで見た支援というのがすごく大事だなと、その中で体のケア、支援というのがすごく大事だと思いますので、個人的にはこの理学療法士さんの産前産後のケアというのがとてもすばらしいなと思い、取り入れていただきたいなとすごく思っています。

このように、全国津々浦々、たくさんの自治体が、それぞれの地域の課題や要望に合わせて、様々な子育て支援策や施設を設置されています。

大事なことは、実際に利用する人たち、つまり子育て世代や若い人たちの思いに合っていること、そして利用しやすいこと、そして欲しい機能であったり欲しい施設はたくさんありますが、その地域のお財布事情も含めた、地域の実情に即していることだと思います。

そこで、伺います。

新設のこども・子育て複合施設のコンセプトである、気兼ねなく立ち寄ることができ、相談できる場所、きめ細やかな支援を切れ目なく行う場所、誰もが利用しやすい場所を実現させるために、具体的にどのような機能や工夫をされる計画でしょうか。

その際、子育て世代や、今後、妊娠、出産、子育てを考える世代、若い人たち、子育て支援をされている人たちからの意見を聞いたり、この施設の在り方について、アイデアを出し合う会などを行う御予定はありますか。

今のすまいるステーションの機能に何かプラスするような取組や、地域の子育て支援拠点や民間の子育て支援団体などとの連携は何か考えられていますか。

相談のしやすさ、利用のしやすさは、建物や窓口、そして対応してくださる職員の方の雰囲気も大変重要になってくると思いますが、そのための取組は何かありますか。

ゼロ歳から18歳。これは親目線でいくと子供ですが、同時に妊娠、出産を次に担っていく世代です。

この施設でプレコンセプションケアや包括的性教育など、次の世代をしっかりと育み、少子化の根本的な対策も担えればと思うのですが、いかがでしょうか。お願いします。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。藤田福祉部こども局長。

○福祉部こども局長（藤田恵女）

（登壇） こども・子育て複合施設について、お答えいたします。

まず、具体的な機能や工夫についてでございます。

1階には、子育てに関わる方々の誰もが利用できる交流スペースや、乳幼児健診の会場として利用できる部屋を設定する予定です。

2階には全ての妊産婦、子供・子育て世帯を対象としたポピュレーションアプローチを行う母子保健機能と、困難な課題を抱えた方々への支援を主体的に行う、児童福祉機能を有する部署を同じ建物内に複合し、垣根なく、保健師、子供家庭支援員や心理士等の専門家につながることでできるよう、サービスの質と量の拡充を図ることとしております。

3階には、こども発達支援センターを中核とした、子供の特性や状況

に応じた、多様な学びの場の支援、相談、それに関わる関係者、機関をつなぐ教育機能を備えることを予定しております。

また、秘匿性の高い相談も安心してできるような相談室を複数確保するなど、プライバシーに配慮したつくりとなるよう、工夫を考えております。

次に、子育て世代や若い人たち、子育て支援関係者などからの意見やアイデアを出し合う会の予定についてでございます。

子ども・子育て会議、高校生等を対象としたグループワーク等の機会の活用や、子育て世代の意見聴取をしてみたいと考えております。

次に、今のすまいるステーションの機能に何かをプラスするような取組や、地域子育て支援拠点や民間の子育て支援団体などとの連携等についてでございます。

現在、こども未来課内に設置しておりますファミリー・サポート・センターを移転することで、複合施設を利用した会員の交流会や、子育て支援関連団体等と協働して実施する、子育てボランティアを養成する講座の開催などを考えております。

次に、相談や窓口に対応する職員の雰囲気に対する取組についてでございます。

子育て中の保護者や子供と接する保健師等は、若い職員が比較的多く、経験の積み上げやスキルの向上を目指し、日々業務に当たっております。

昨年度より、子供の健やかな成長発達を支えるため、保健指導・相談の手引きを作成し、子育てに対する専門的知識、コミュニケーション力や傾聴力の向上、学習を図っております。

子供や保護者と良好な関係を築き、安心して相談できる雰囲気づくりに取り組んでまいります。

次に、プレコンセプションケアや包括的性教育についてでございます。

本市では、市内の高校3年生を対象に、プレコンセプションケアの内容を含む、独り立ちサポートブックの配布、希望する高校への出前講座や文化祭での出張健康相談を実施し、生涯にわたる健康管理を考えるきっかけづくりとして、妊婦体験や体組成測定等の体験型学習を実施いたしております。

より多くの若い世代へ普及啓発を行う観点から、学校等と連携し、引き続きアウトリーチ型の取組を継続してみたいと考えております。

○議長（田窪秀道） 再質問はありますか。野田明里議員。

○4番（野田明里）（登壇） 高校生たちから、施設についてのアイデアを伺うような会を開いていただけるということで、今、子育てしている世代だけじゃなく、次の世代の意見も聞いていただけるというのはすごく大事な視点だと思いますので、ぜひ、たくさん開催していただけて、たくさん意見を聞いていただけたらと思います。

意見が集まり過ぎると、ちょっとまとめるのが大変なのかもしれないんですけども、これまで拾い上げることができなかった声にこそ、前に進んでいくヒントは必ずあると思っております。なので、できればたくさんの方から、たくさんの意見を聞いていただければと思います。

こうして、市役所の職員の方たちとお話をさせていただきますと、皆

さん本当にすごく真摯に市民の方たちと向き合って、日々相談に当たっていただいたり、業務に当たってくださっていることが伺えるのですが、市民の方たちは、それを知ることがなかなかなくて、最初の給食の話もそうだったんですけれども、聞くと皆さん安心します。この安心さえできれば、信頼関係もすぐに築いていけるのではないかと思いますし、市政に対して協力していただける姿勢ももっと見せていただけるのかなと思います。

簡単なようで難しいことだなとは思いますが、しっかりと情報を提供していただき、皆さんに届きやすい形で、これからも啓発をしていただきたいと思います。

散在する課題、これ自体を解決していく、スピード感を持って、今以上に解決していただきたいと思うのと同時に、その問題がこの先さらに広がっていかないようにというところは、本当に意識の改革であったり、啓発なのかなと思っています。これはそんなにお金がかかることではないと思いますので、ぜひそのような取組をこれまで以上に増やしていただきますことを要望して、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。